

長崎街道かんざき宿場まつり

かんざきの特産
そうめん流しも



宿場まつりの見どころ
総踊り!



三大夏まつり

ステージイベントも
盛りだくさん!



日中は
ふれあい街道ウォークや子どもみこしも



わんぱくまつり

くねんワン、くねんニャンも
大人気!



わんぱく積木競争!



城原川ハンギーマつり



大好評 ハンギースピードマスター！

サブアトラクション
飛び込みターザン



菱娘も全力疾漕！



わんこそうめん早食い



神崎市



夜はステージイベントに花火も



脊振町

子どもたち大喜びの
ヤマメのつかみどり



楽しいダンスや
昔遊びを体験！



「神埼和桑部会」誕生と

ボランティア作業に感謝!!

7月26日、神埼町西郷地区に「神埼和桑部会」が誕生しました。この発会式が岩田公民館で行われ、高平増夫氏が和桑部会会長に選任され、出席要請を受けた私は、喜んで祝辞を述べたところです。

私は、平成12年だったと思いますが、「各自自治体は計画立案を行い、自己の財源を持ち、その実現への実行・努力に努め、その結果に基づき住民の喜怒哀楽は、全て自治体の自己責任において行う」と、「地方分権」が叫ばれ、同年4月1日に地方自治にかかる様々な法律が改正、施行されたことを記憶しています。なお、その後は、国に地方創生担当大臣が任命され、「まち・ひと・しごと創生本部」を中心に若者の就労・結婚・出産の支援、東京一極集中の是正、地域特性の発揮に向けた地方創生や地域活性と言った地方独自の活性化が求められてきました。

このような流れを受け、神埼市の創生や活性化を常に考えてきました。最初に取り組めたきっかけは、職員退任時のあいさつに出てきた「菱」がヒントであります。今では、和菱組合（会長・本村宣行氏）が組織され、

水田栽培での収穫と神埼市の風物詩として知られる、ハンギーによるクリークでの収穫がなされる、「神埼菱焼酎」「ひしほっこり」の材料となり、商品として市販されているのはご承知のとおりです。今後、菱に関しては、菱の成分を活かした「化粧品」「飲料・菱茶」の商品化ができるのか、西九州大学（安田みどり教授）との産学官連携の下で研究を行うていきます。

また、菱以外に市のブランドとして何かないか、できないかを思索し、一部の市民の協力と支援を得ながら試作栽培を行ってきました。列挙すれば、①クリークにある「堀レンコン」②「クワイ」③露地でできる「バナナ」④「ニンニク」⑤「桑」⑥「ヤー

コン」⑦「宇宙芋」などがあります。しかし、全く不可のものもあり、その他に取り組めるものもあると思い、今でも考え続けています。市民の皆さんからのアイディアの提案と実行・挑戦への協力活動をお願いしたいものです。

一方、市民の健康寿命を延ばせないかと考えるとき、「成人病が多い」という実態があります。住民健診の結果、肥満・高血圧・高血糖などの指摘があげられます。

私は、インスリンを使用されていた方が「桑茶を飲み続けていたらインスリン投与量が減少した」との話を聞くとともに、現実に、「桑茶」が市販されていることから、神埼の「桑」と「菱」をブレンドした健康飲料（仮称：神埼くわ・ひし茶）なるものができないかと考えるのです。私の思いを知った西郷地区の有志の方から、元の温州みかん山（畑）や荒れた水田で桑栽培に取り組んでみようかとの提案を受け、早速、具体的な動きとなり、「神埼和桑部会規約」を基に組織発足の運びとなったものです。

また、「神埼和桑部会」の発

会式の翌日、7月27日は、和桑部会の皆さんと市職員有志のボランティアによって、栽培している桑の葉摘み（200kg）が行われました。これを原料として粉末化し、菱皮の粉末とブレンドした「神埼くわ・ひし茶」を試作する計画となつていきます。多くの市民の方に試していただければと思います。

さらに、桑の実（マルベリー）は、ジャムとしての試作展開ができないかも研究検討を重ねていけたらと思つています。今後、どのような展開になるかはわか

りませんが・・・、大いなる期待と不安が交々。

西九州大学と和桑部会、和菱組合、さらに関係する多くの人たち、それに市（行政）が連携して、桑と菱が有するポリフェノールやその他成分の効能による市民の成人病減少、改善に寄与できることを信じ、市の活性化を夢見ています。皆さんのお気づきになるご意見や提案、ともにご協力を願うものです。

神埼市長松本 茂幸

○ポリフェノール含量（西九州大学提供）

項目	含有量 (g/100g)		
	和菱外皮	桑の葉	
総ポリフェノール	8.68	2.05	
菱ポリフェノール	オイゲニン	1.59	—
	TGG	1.75	—
	トラパイン	2.42	—

和菱外皮の総ポリフェノール含量は、8.68g/100gであったのに対し、桑の葉は2.05g/100gであった。和菱外皮には桑の葉の4倍以上もポリフェノールが含まれていることがわかった。また、和菱外皮中の菱ポリフェノール（オイゲニン、TGG、トラパイン）が合計で5.76g/100g含まれていることがわかった。しかし、桑の葉には、菱ポリフェノールは含まれておらず、今後、採取・精製を行い、どのようなポリフェノールが含まれているかを調査する必要がある。